# お盆

平成２９年８月第２週放送

八月十五日、旧暦のお盆がやってまいります。“月遅(つきおく)れのお盆”という言い方をする八月盆(はちがつぼん)ですが、子供たちは夏休みそして社会人は盆休みとなり、故郷(ふるさと)へ帰ったり普段出来ない遊びをしたりと、何かと楽しみにしていることでしょう。

夏真っ盛りのこの八月盆は、ご先祖さまのお墓参りをし、迎え火を焚(た)いてご先祖さまの御霊(みたま)を家にお迎えし、盆棚(ぼんだな)と呼ばれる特別な棚(たな)で供養する期間です。

盆棚の飾り付けは地方によって様々(さまざま)ですが、お供物(くもつ)の一つである「水(みず)の子(こ)」を紹介いたします。“水”に子供の“子”と書いて「水の子」と呼びます。器(うつわ)に蓮の葉を敷(し)き、そこに浄水(じょうすい)を湛(たた)え、禊萩（ミソハギ）という花を束(たば)ねて中の水を振りかけられるようにします。また、同じように器に蓮の葉を敷き、キュウリやナスを賽(さい)の目(め)切りにした物と洗ったお米を混ぜ、その蓮の葉の上に盛ります。

これらの供物は、自分のご先祖さまだけではなく、供養を受けることができないであろう御霊(みたま)のために飲食(おんじき)の供養をするという意味で、特に餓鬼道(がきどう)に住むといわれる餓鬼(がき)は、喉(のど)が針のように細く食べ物が通らないといわれ、食べ物を食べようと手にしても火がついて食べられないため、禊萩（ミソハギ）で水をかけて火を消して食べ物が食べられるようにするという言い伝えに基(もと)づいています。また、お盆にお寺でよく行われる「施食会(せじきえ)」の行事でも、同じように浄水と水の子を使って生きとし生けるものの供養をいたします。

盆棚を見ていると、普段見慣れないためか不思議な感覚に捉(とら)われることがあるでしょう。お盆の行事は、現在の生活スタイルにあっていないと感じることもあるかもしれません。家が狭く盆棚が作れない、迎え火や送り火ができない、お線香の煙や蝋燭(ろうそく)の火が心配、後片付けが大変などが考えられます。しかし、探してみると現代社会ならではなものもみられます。ホームセンターなどでは「お盆供養セット」という茣蓙(ござ)や麻(あさ)がら・精霊馬(しょうりょううま)がセットになったものや、ＬＥＤの電球で火が灯ったように見える蝋燭やお線香などもあるようです。

これらは本物ではないかもしれませんが、方便(ほうべん)でも良いのではないでしょうか。“出来ないからやらない”ではなく、“なるべく出来ることをやる”と考えを変えてお盆の行事をつづけていくことが大切なのです。

それは、私たちがお盆にご先祖さまを想(おも)い、今生かされている自分の命の有難(ありがた)さを、盆棚を飾り供養することによって気付かされるからではないでしょうか？

供養の心を形にすることは、大切なことなのです。

— 終 —